初めての団体生活が始まる
わかば幼稚園に新たな仲間

多くの人が新たな門出を迎える４月。町内各所で入園式、入学式が行われました。４月10日には、わかば幼稚園（山口悦子園長）で「第43回わかば幼稚園入園式」が行われ、新たに５人の園児が仲間入り。同式で山口園長は「皆さんにとっては初めての団体生活が始まります。幼稚園でのお兄さん・お姉さんとの生活を楽しみにしてください」と歓迎のあいさつをしました。その後、一人一人名前を読み上げられた園児らは元気に返事をし、これから始まる生活への期待に胸を膨らませていました。

元プロ選手との交流楽しむ
町内でサッカー教室を開催

４月19日と20日に、町内で「2015ふれあいサッカー in山田町」が行われました。これは横浜Ｆ・マリノスがサッカー教室を通じて震災を経験した子どもたちの心のケアを目的に行っているもので、ことしで４回目の開催。参加した子どもたちは、ボールを使った準備運動やフットサルのゲームを楽しみました。元サッカー日本代表で同教室のコーチを務める波戸康弘さんにお話を伺うと「子どもたちの笑顔から元気をもらいます。これからも続けていきたいです」と、笑顔で話してくれました。

町の消防団が優良消防団に
表彰旗受章祝賀会行われる

３月10日に、日本消防会館ニッショーホールで行われた「全国消防大会・第67回日本消防協会定例表彰式」で山田町消防団が優良消防団「表彰旗」を受章しました。これは成績が抜群に良いと認められた消防団に授与されるもので、同消防団としては50年ぶり、２度目の受章。３月21日には町中央公民館で受章祝賀会が行われました。佐々木元団長は「今回の受章は皆さんの協力によるもの。これからも防災のリーダーとして地域の安全に努めていきたいです」とこれからの意気込みを話しました。

本町でFM放送がスタート
山田ＦＭ局完成式行われる

３月29日、町役場５階委員会室で「山田ＦＭ局完成式」が行われ、同日午後１時からＦＭ放送がスタートしました。同式で佐藤町長は「本町でのラジオ放送は40年間待ち望まれたものです。震災当時は情報が無かったが、今回の開局を災害に備えるために役立てていきます」と、あいさつ。その後、町とＩＢＣ岩手放送、ＦＭ岩手の三者が山田ＦＭ局運営協定書に調印しました。なお、ＩＢＣラジオは76.7メガヘルツ、エフエム岩手は82.0メガヘルツ、ＮＨＫＦＭは84.0メガヘルツで放送されています。

町のわすいい

今月の題字　糠森　理音（りおん）君（轟木小３年）

船越家族旅行村でさくらまつり
植樹と芸能で春を楽しむ

４月19日、船越家族旅行村オートキャンプ場にて「さくらまつり」が開かれ、町民やボランティア、復興に携わる人々ら230人が植樹に汗を流しました。津波の到達点より高い場所に桜を植えて震災犠牲者を追悼するとともに船越半島を新たな桜の名所にしようと行われているもので、当日は会場の裏山に150本の桜を植樹。会場では、白石地区住民による手打ちそばや蒸しカキなどが振る舞われたほか、ステージでは船越保育園児の剣舞や大浦太神楽、キッズダンス、小田代直子さんの歌なども披露され、参加者は植樹と芸能で春の一日を楽しみました。

織笠川でサケの稚魚を放流
４年後の再会を誓って

４月20日、織笠川で「サケ稚魚放流会」が行われ、織笠小児童９人と轟木小児童８人が参加しました。同放流会は、子どもたちにサケ資源の大切さを知ってもらうとともに、放流を通して漁業に関心を持ってもらおうと毎年行っているもので、この日放流したのは稚魚１万５千匹。参加した児童は「元気に帰ってきてね」と声を掛けながら放流し、海に向かって泳ぎだす稚魚を見守っていました。最後に児童たちは４年後に大きく、立派になったサケに会えることを願い、元気いっぱいの「サケの歌」を披露しました。